村山千尋先生（医学科３３期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。

母校である浜松医科大学同窓会からこのような賞をいただき大変光栄に存じます。温かくご指導くださった本学精神医学講座の山末英典教授やご協力いただいた多くの先生方、関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。私は本学の編入生ですが、編入前に東大の農学部の大学院で研究をしていました。その時は研究が上手く行かず止めてしまったのですが、あの時に一念奮起して本学に編入して本当に良かったなと思います。

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

学部4年生だった2010年に、当時本学精神医学講座の准教授だった中村和彦先生のPET研究の論文がヤフーニュースに紹介されていて、すごいな、自分も研究するなら結果のはっきり出る画像研究が良いなと漠然と考えていました。本学の精神医学講座の大学院に入学した際に指導教官の山末先生と相談して、ちょうど計画されていた自閉スペクトラム症のPET研究を担当させてもらうことになりました。

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

週4日の外部病院での臨床や、まだ自分の子どもたちが小さいため家事、育児に時間や労力が取られた点です。ただ逆に、大学院在学中も臨床医としての収入が得られたことは非常にありがたかったですし、限られた時間の中で集中して研究する環境は自分の性格に合っていたと思います。

質問４　近況をお聞かせください。

市野イオンの傍にある天王病院という精神科病院で週4日働き、週1日の研究日に精神科医局や浜北のPETセンターに顔を出しています。

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

精神疾患は原因、病態、治療法がよくわかっていないものが多く課題だらけですが、その分やり甲斐のある研究領域だと思います。今後も本学の強みであるPET研究で、分子的な病態が解明されて行くのではないかと期待しています。

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

本賞の受賞はとても励みになりました。他にも研究が注目され、励みになるような取り組みを増やして行ってもらいたいです。